

碧南市域を縦断する名鉄三河線は、三河鉄道として大正3年（1914）2月5日に産声をあげました。大正15年（1926）9月1日に大浜港（碧南）～神谷間（松木島）まで延伸すると碧南の人々の交通や物流に大きな影響を与えました。しかし利用者は昭和40年代をピークに減少、交通手段は自動車へと移り、平成16年（2004）4月1日をもって碧南～吉良吉田間は廃線となりました。今年度は三河鉄道が開業して111年、名鉄三河線碧南～吉良吉田間が廃線となって20年になります。そこで本展では三河鉄道の歴史をはじめ、幻となった鉄道計画などについて、市に収蔵される写真・資料を中心に紹介します。

▼日時

2月8日(土)～3月6日(木) 9時～21時

▼場所

文化会館

▼料金

無料

▼ギャラリートーク（展示説明会）

時 2月15日(土)、3月1日(土) 14時～14時30分頃 所 文化会館 ￥ 無料 申 不要

クイズ！この景色はどこでしょう？



答えは文化財展でチェック！



昭和二〇年（一九四五）八月に日本が連合国に無条件降伏して戦争は終わりましたが、五月の名古屋空襲で堀田国民学校校舎は全焼、学童の家族も被災していました。集団疎開の解除、帰校は十月になりました。堀尾国民学校でお別れ会が開かれました。おやつ、サツマイモを堀田の子に残さず食べ終えたのに堀尾の同級生の机上に芋の薄皮が残っているのに気づき、気まずい思いをした子がいました。疎開の子は薄皮も残せない空腹を抱えていたのです。

堀尾町は町内各字（現在の町区分）に割り当て、草履三八五足を編んで帰宅の土産としました。当座の

No.113 碧南の寺を巡る（6）
戦争の記憶残る安専寺 その二
前号では安専寺が学童集団疎開の宿所になったことを書きました。政府は防衛と戦時増産を図るため空襲の目標となりそうな大都市から一般生活者や建物を退去させました。地方に縁故あるものは自力で（地方に協力を命じ）移転させ、縁故なき学童を集団疎開させたのでした。



安永5年銘の梵鐘
安専寺本堂内で公開

履物として役に立ったはずですが。ところで、安専寺には現在梵鐘が三口あります。最も古いものは安永五年（一七七六）の銘があり、碧南市に現存する平坂村の太田庄兵衛家の作品として最古のものであり、平成二六年（二〇一四）碧南市の指定文化財になりました。

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室 ☎ 41-4566